

普及活動情勢報告（平成30年10月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

県立農業大学校生に高知市農業の魅力をアピール



担い手支援体制を紹介

普及所は、10月11日に2年生22名を対象に、高知市の農業を知ってもらい、就農を考えるきっかけづくりを目的として、高知市農業の概要や、産地・市・県が一緒に取り組む『産地提案型担い手確保対策』について紹介しました。

授業後実施したアンケートでは、就農について「意向あり」8名、「少しあり」11名、「全くない」2名であり、将来担い手として活躍してくれることを、大いに期待できそうな結果となりました。

今後も、普及所では県外からのI・Uターン就農者の他にも、県内の若い世代に地元農業の魅力を発信することで担い手の確保に取り組む、将来産地を守り、産地を引っ張ってくれるリーダーが育つよう支援していきます。

10月1日、JA高知春野に無料職業紹介所が開設！



農作業の指示の出し方など
雇用に関する注意点を講習

10月15・17日、JA高知春野において、新設されたJA無料職業紹介所に関する説明会が開催されました。

参加農家18名に対し、全体の仕組みや求人募集の申し込み方などが説明されました。普及所からは、「雇用管理のポイント」について講習しました。

春野地区では雇用の必要な品目が多く、本事業に対する農家からの期待も大きくなっています。今後はJAと協力して、求職者・求職者の申し込みを増やすための、チラシ配布などの活動支援を行っていきます。

無事に定植できました。



現地で確認する部会員たち

10月2日、高知市介良において、JA高知市イチゴ部会の現地検討会が開催され9名の参加がありました。主に栽培されている品種‘紅ほっぺは、炭そ病に弱い品種のため、育苗期には普及所より病害虫防除の徹底を呼びかけました。一部で炭そ病が発生しましたが、部会内で協力し合い9月末に無事全部会員が定植できました。現地検討会では、各ほ場の生育の状況を確認しました。普及所からは本ぽで発生しやすい病害虫への注意喚起とともに、遮熱透光資材を使用した事例を紹介し、次年度の育苗ほでの利用を勧めました。

普及所では、今後も個別巡回や情報紙を通じて本ぽでの適切な栽培管理の徹底を呼びかけ、年内収量の増収を目指します。

ユズ産地の活力維持のために ～土佐山柚子生産組合の中央研修会～



熱心に聞き入る生産者

9月27日、土佐山柚子生産組合の中央研修会が開催され、生産者30人、関係者18人が集まり、ユズオイルの現状、病虫害情報などについて研修しました。

普及所からは、防除用ドローンを使った場合の防除の課題などを議論していることや優良系統樹の探索に関する情報を提供しました。また、果樹試験場に依頼し、青果出荷用ユズが貯蔵中に発生する通称「えくぼ症」の発生原因と対策を発表してもらい、生産者と活発に意見交換しました。

10月下旬からユズの収穫が始まります。普及所では、収量調査等を行い、適時に情報提供していきます。

鏡村直販店組合の将来をみんなで検討しました。



SWOT分析に取り組む様子

10月2日、「鏡むらの店」理事会において、理事8人、販売職員1人と普及所職員3人でSWOT分析を行いました。

普及所から、まず経営状況やPOSデータの分析結果を提示した後、お店の強みと弱みを書き出してもらいました。それらを見ながら「野菜の仕入れや集荷をしては」といった取り組み案をみんなで考えました。更に、事前聞き取りした販売職員・普及所職員の案も紹介し議論を深めました。

今後は、チーム会で集客力および販売額増に向けた取り組み案を検討し、総会で組合員全体にはかる準備を行っていきます。